

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 3 月 4 日 10:34AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,000～38,700 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 38,000～44,000 ドル
(S&P500) 5000～6000

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000～20,200

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 139.000～154.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～108.523

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

2025 年に日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇によって最高値を更新するでしょう。そのターゲットは[4 万 3000 円-4 万 5000 円]です※。

この第(5)波上昇を以て、コロナショック底以来 5 年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の 3 年間』完結)、その後はプライマリー第④波による停滞局面に移るでしょう。

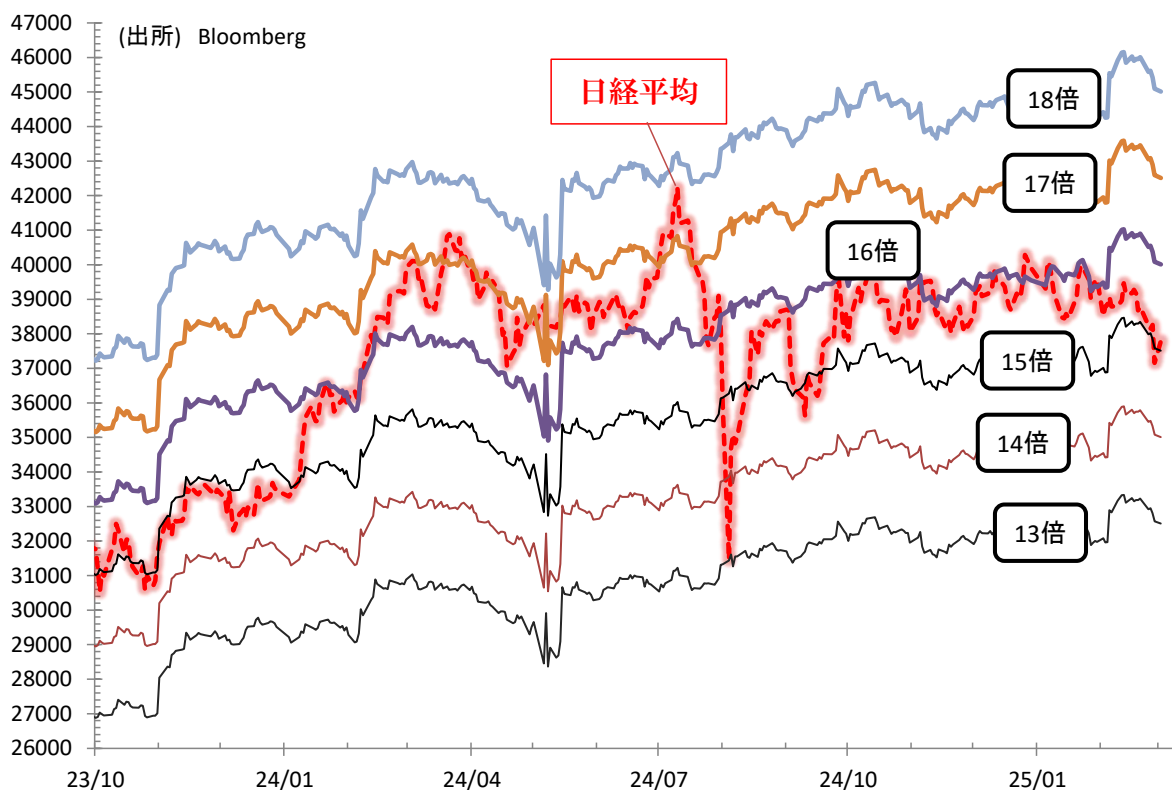
24 年 7 月以来のインターミディエイト級第(4)波の調整は続いています。第(2)波が「ジグザグ」だったことから、オルタネーションに則り、第(4)波形状は「トライアングル」、「フラット」、などの保ち合い型になるでしょう。年初から(4)-C 波による下落が進行中とみられ、3 月中にも(24 年 8 月底に次ぐ)二番底を付けるでしょう。そしてこの二番底は、第(5)波上昇トレンドの(事実上の)開始点になると思われます。

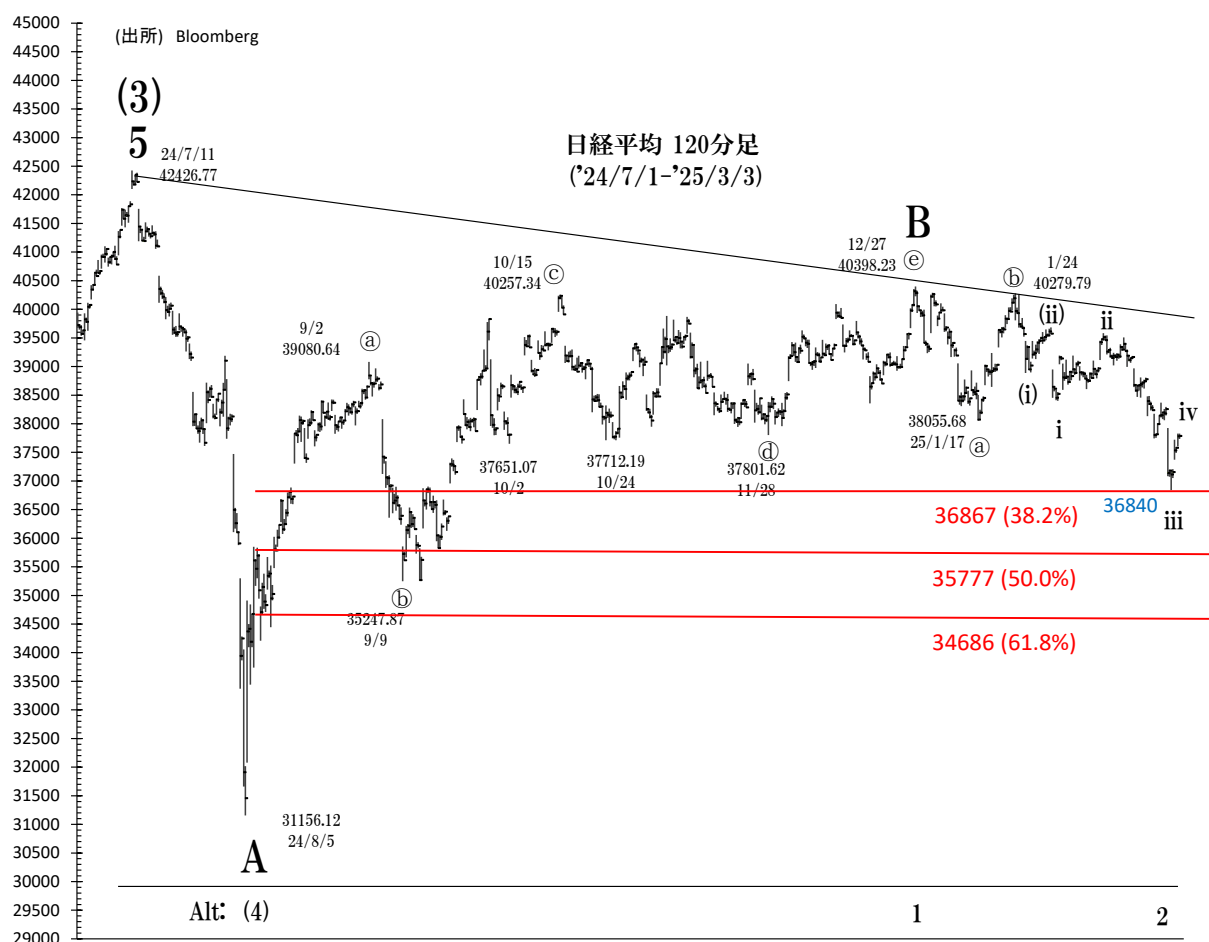
※2025 年の日経平均予想レンジは[3 万 5000 円-4 万 5000 円]です。



[予想 PER 別の日経平均水準]

日経平均予想 EPS は 2500 円(3/3)。過去最高は 2564 円(2/13)です。





【時間足 エリオット波動分析】

40,398 円(12/27 高値)からは、第(4)波「シンメトリカル・トライアングル」(A-B-C-D-E)における、C 波の下落に当たります。この C 波により日経平均は、24 年 8 月底に次ぐ二番底を付ける、と見込まれます。

季節性からみると、決算期末の 3 月は軟調になりやすい上(いわゆる「彼岸底」の月です)、今年 3 月は「三日新甫」(月最初の取引日が 3 日から始まる)であり、波乱の展開を予感させます。

2 月 28 日には一時 1400 円超も急落しましたが、フィボナッチ比率の最初の節目[36,867 円]を達成すると、翌 3 月 3 日は 629 円高となりました。

もっとも、2 月 28 日安値(36,840 円)は一時的な安値に過ぎないでしょう。下値模索の動きは継続し、[35,777 円](B 波の半値押し)、[34,686 円](同 61.8%押し)などを順次、打診する展開となりそうです。

NY ダウ・S&P500



【日足 エリオット波動分析】

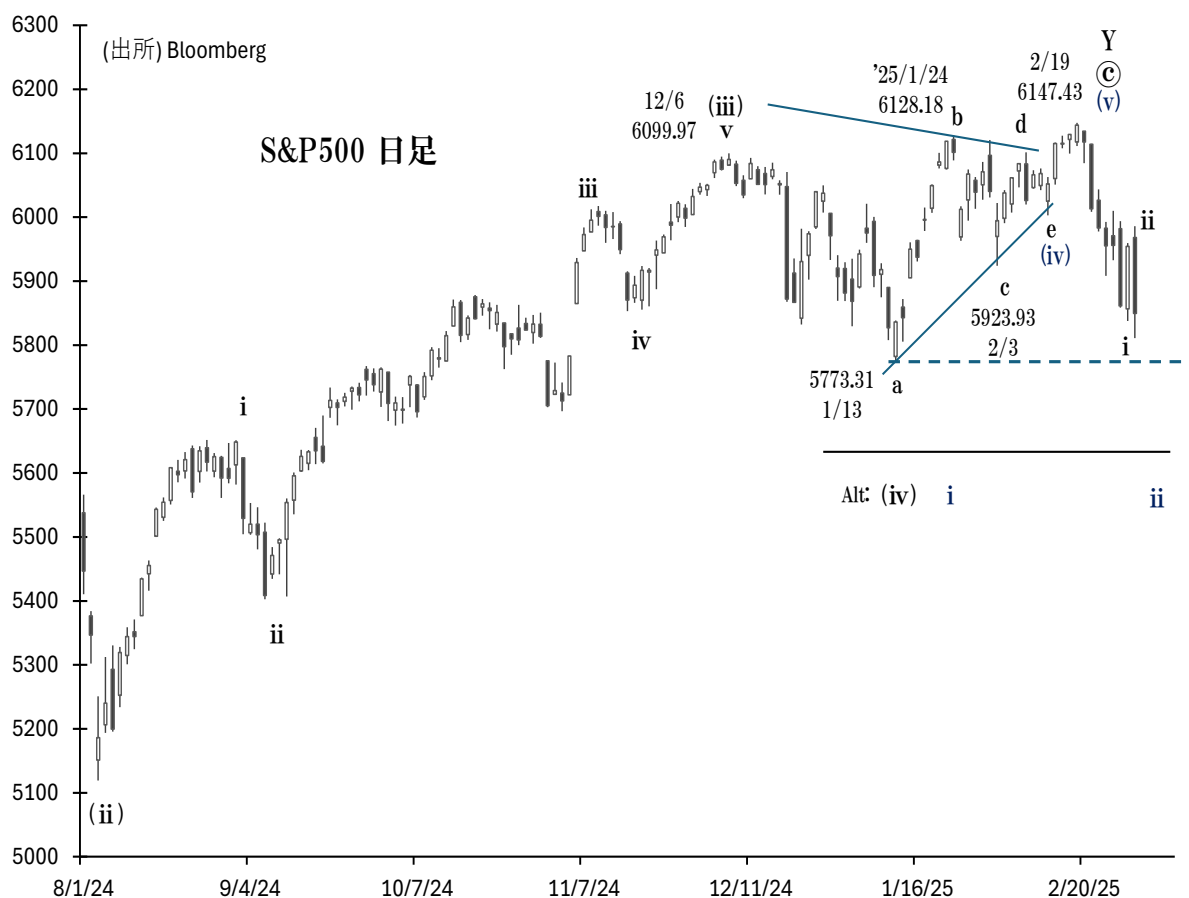
NY ダウは、22 年 10 月安値(28,660ドル)以来の上昇(B)波を 45,073ドル(12/4 高値)で完成し、(C)波の下落局面に突入した可能性が高い、とみています。それは先々、22 年 10 月以降で一度もなかった大きなスケールの調整に発展していくでしょう。

22 年 1 月～10 月の(A)波は 22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、あるいはより大きな下落スケールになると思われます。

今後数カ月内の下値ターゲットとして注目される水準は、24 年 4 月安値(37,611ドル)です。これは[エンディング・ダイアゴナル]開始点の水準のことで、この時点における NY ダウの高値からの下げ率は 16.5%です。

(オルタナティブ・カウント)

41,844ドル(1/13 安値)からの上昇は第(v)波です。この見方によると NY ダウは今後、[45,244ドル]、[45,575ドル]、[46,456ドル]、などへ上昇する可能性があります。これら上値メドを達成後に調整局面が始まるでしょう。なおこの見方は、41,844ドルを一時的にも下回ると無効になります。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

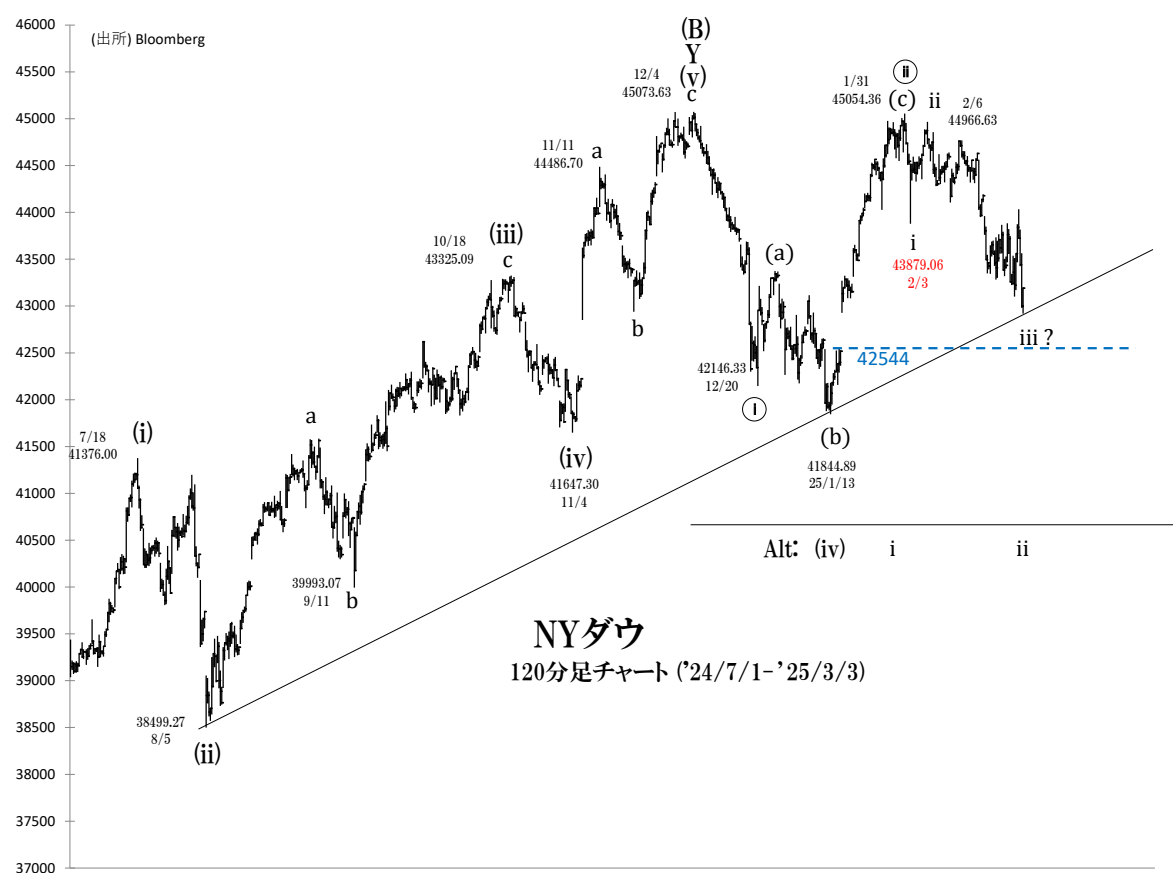
6147(2/19 高値)を以て第(v)波は完了し、そこから調整が始まったとみられます。第(v)波の上昇幅自体は比較的小さいですが、長期的な上値レンジ[6145-6161]内に収まるものでした。

3月3日のローソク足は長大な「包み陰線」であり、それは弱気継続を示唆しています。短期的にも5773(1/13 安値)を試すとみられますが、それを一時的にも下抜くと、一段と大きな調整入りが確認されます。最終的には22年10月以降で最大の調整に見舞われるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

5773(1/13 安値)以来の第(v)波が依然進行中です。

第(v)波のうち第ii波は「(エクспанディッド)フラット」(A-B-C)であり、足元の下げはC波に位置付けられます。C波は5773を下回らず、まもなく(v)-iii波による上昇が始まるでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

45,054ドル(1/31 高値)からマル iii 波による下落が進行中と思われます。

3月3日には一時42,919ドルまで下げ、注目サポートレベル・43,070ドル(1月からの上昇の61.8%押し)に達するとともに、昨年8月と今年1月安値同士を通るサポートラインにほぼ届きました。4万3000ドルを終値で維持する限り、目先的にはリバウンドがありそうです。

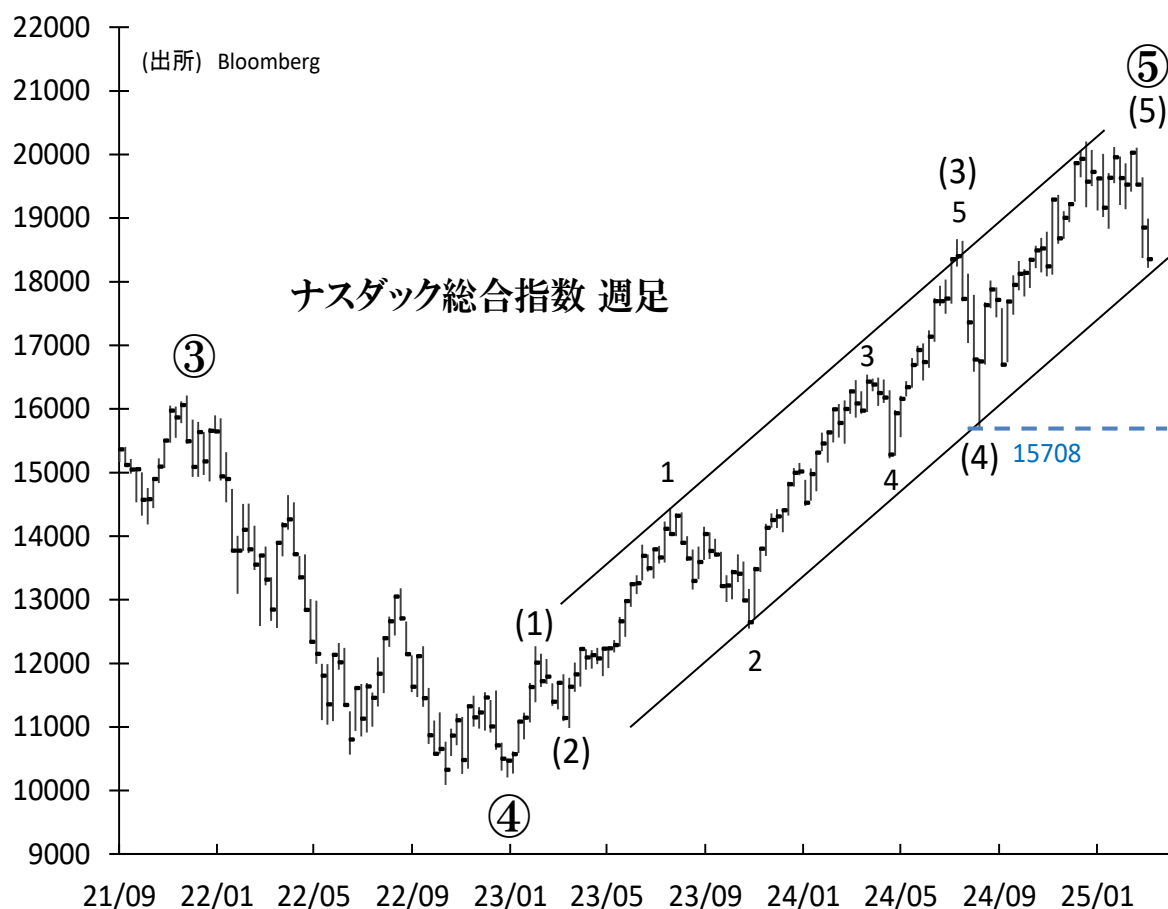
一方、終値で4万3000ドルを下回ると、次は1月14日-15日のマド埋め(42,544ドル)を試すでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

41,844ドル(1/13 安値)から第(v)波による上昇が進行中です。第(v)波-第i波を45,054ドル(1/31 高値)で終え、足元は第ii波の調整にあります(第ii波は終値4万3000ドルを維持するでしょう)。第ii波を終えるとNYダウは、第iii波の上昇により最高値を更新するでしょう。

なお、この見方は41,844ドルを割ると無効になります。

ナスダック



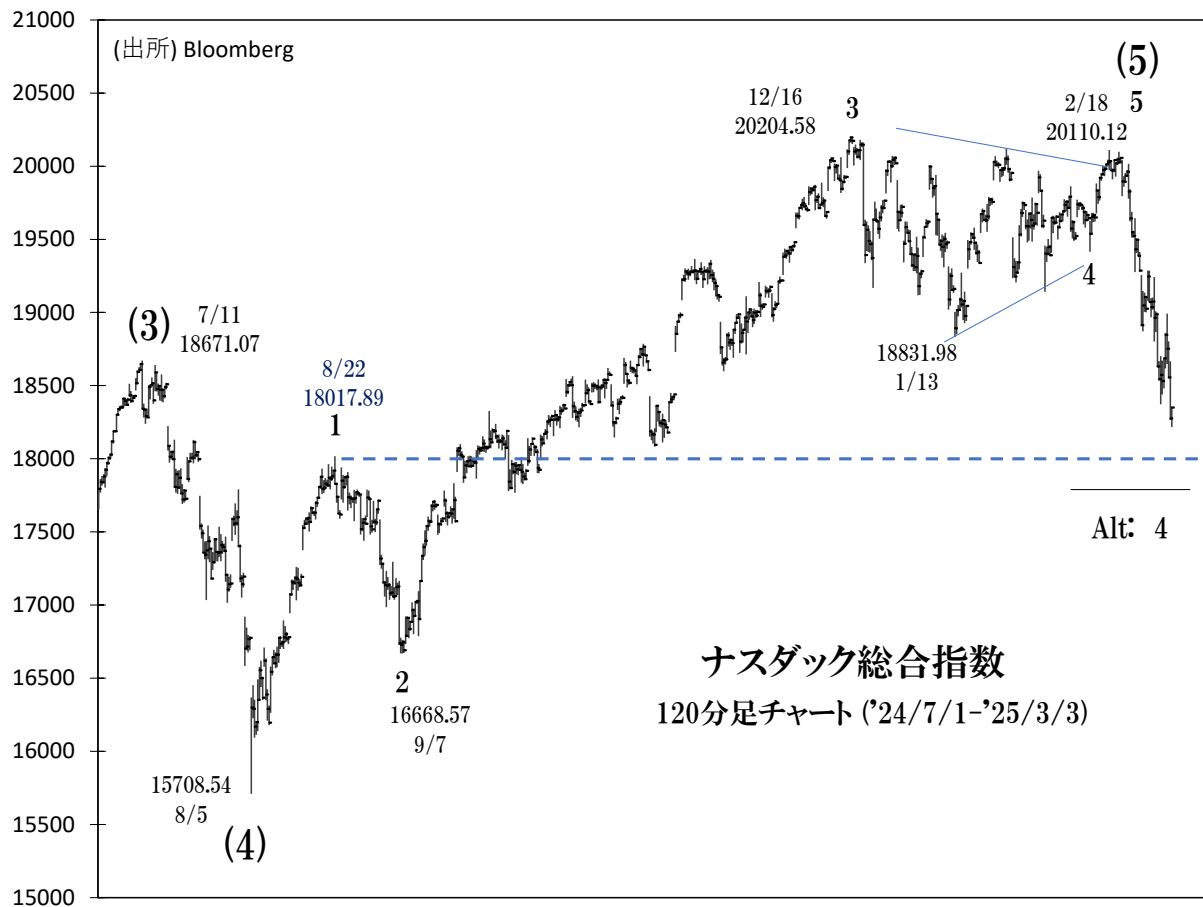
【ナスダック総合指数 週足 エリオット波動分析】

2月28日、ナスダック総合指数(以下、ナスダック)に続きナスダック100も1月13日安値を下回りました。この動きにより、両者の「未確認」(前者の最高値は24年12月ですが後者は今年2月)が確定。これは両指数とも重要な天井を付けた、との見方を一段と強めるものです。

ナスダックは、22年12月安値(10,207)以来のプライマリー級第⑤波を完了し、サイクル級の調整に入った可能性があります。この見方が正しければ、今後の調整規模は大きく、期間も長くなるでしょう。

近い将来ナスダックは、24年8月安値[15,708](レツサーディグリー(4)波安値)を試す可能性が高いでしょう。





【時間足 エリオット波動分析】

20,110(2/18 高値)を以て第 5 波による上昇は完了し—それは最高値に未達の『短縮された第 5 波 (truncated fifth wave)』だったようです—本格的な調整に入った可能性があります。

3 月 3 日には、24 年 8 月からの上昇の 38.2%押し(18,487)と 200 日 MA の両方を終値で下回っており、目先の売り圧力が強まるかもしれません。

ナスダックは短期的にも、[17,956] (24 年 8 月からの上昇に対する 50%押し)を試す可能性があります。なお 1 万 8000 処より下にある次のサポートレベルは [17,426] (同 61.8%押し)です。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24年7月の161.938 円は、15年6月・125.860 円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。

22年10月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、2011 年からの上昇チャネルのセンターライン(①)が強いサポートになるでしょう。

①の水準は 136.165 円(3 月)に位置します。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は 116.540 円(3 月)です。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(24/7/3)からは C 波によるドル安・円高トレンドです。月足分析で記した B 波[トライアングル]説によれば、C 波は三波構成(①-②-③)になります。

チャートは既に一目均衡表(週足ベース)の雲から明確に下放れており、中期的な円高トレンド入りが示唆されています。

158.825 円(1/10)からは③波によるドル安・円高が進行中、とみられます。

ドル/円は**今後数カ月内に、24 年 9 月の 139.565 円を下抜くでしょう**。その際は以下の水準が③波ターゲットとして注目できます。

[138.517 円]…①波と③波が等しく下がる水準

[136.452 円]…24 年 7 月から 9 月までドル/円下落幅と、今年 1 月からのドル/円下落幅が等しい



【日足 エリオット波動分析】

ドル/円は2月25日に一時148.555円まで下げ、24年10月上旬以来のドル安・円高水準となりました。この先もリバウンドを挟みながら、ドル安・円高の流れは続くでしょう。

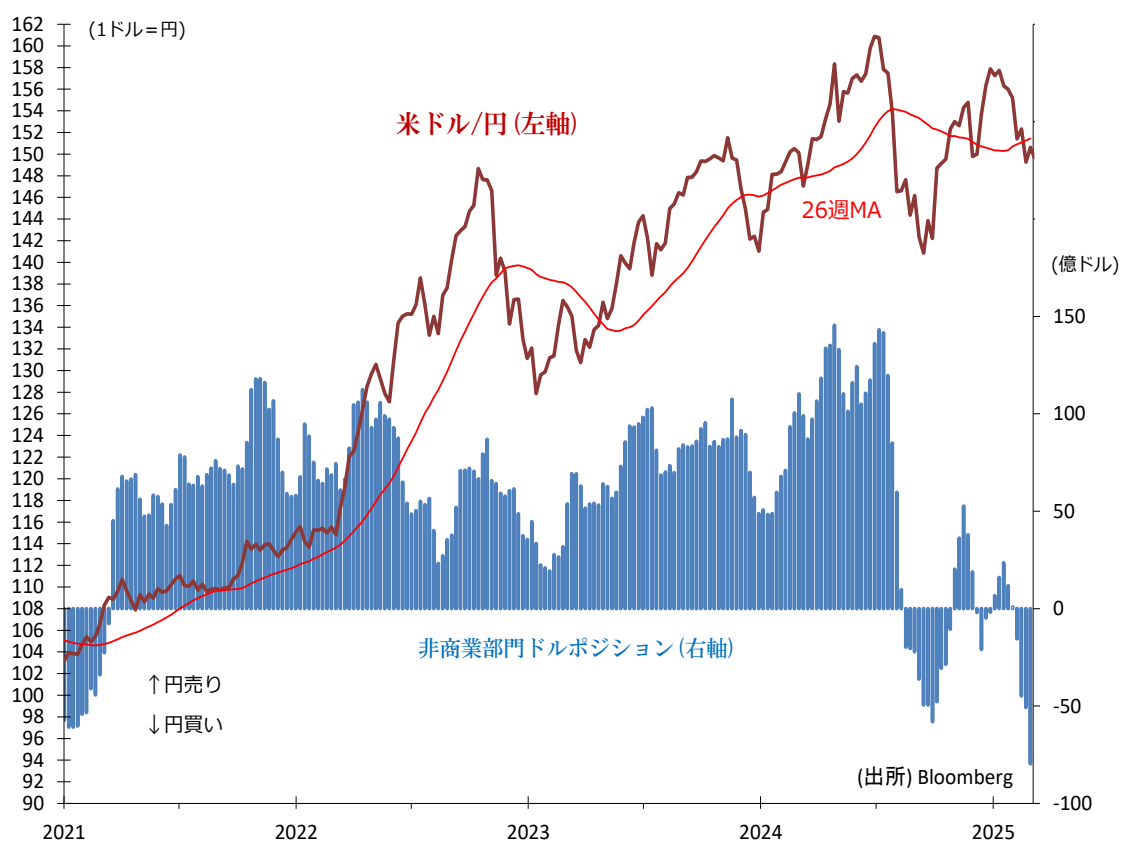
次は[146.922 円] (9月からのドル/円上昇の61.8%戻り)を試す展開を予想します。

金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[143.480 円]です。

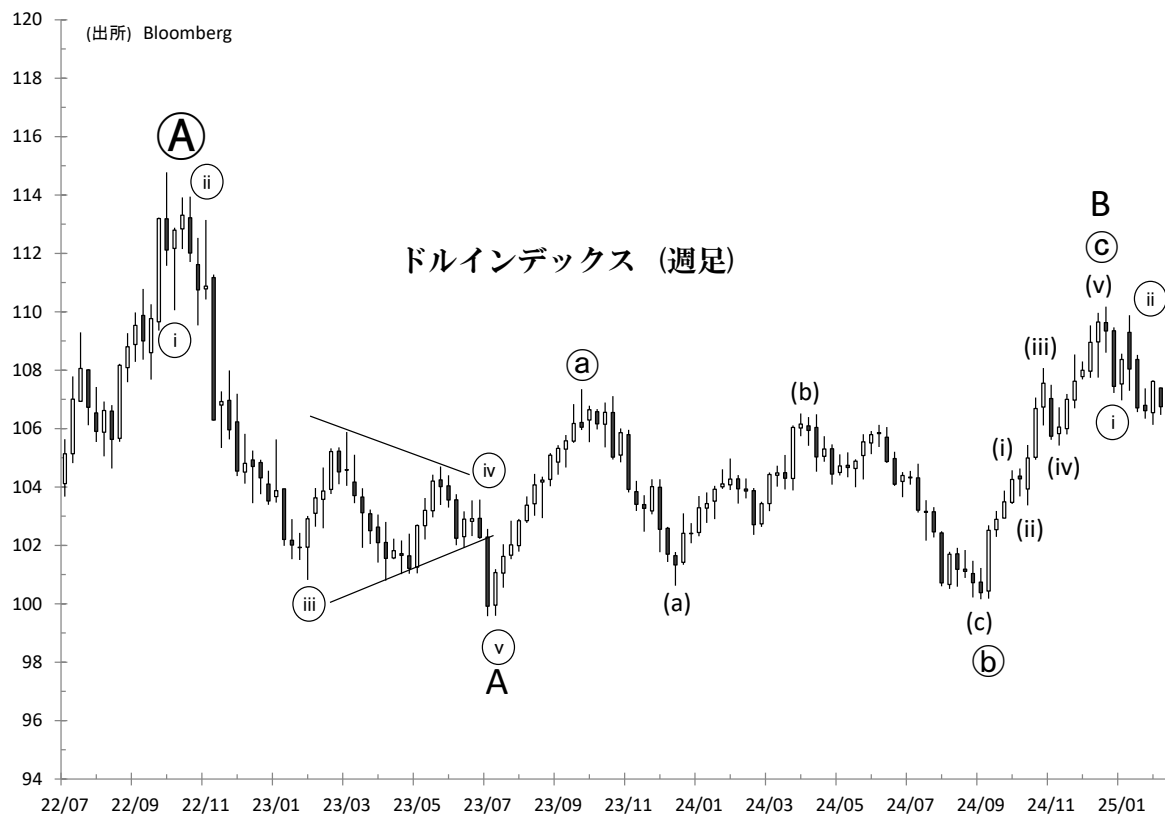
投機筋の円買い持ち高は2016年10月以来の水準に(2025年2月25日時点)

IMM 通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の50.7億ドルから79.6億ドルへ増えました。円買い持ち高水準は2016年10月4日(84.7億ドル)以来の水準です。





ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

110.176(1/13 高値)からのドル安は、C 波に位置付けられます。

109.881(2/3 高値)から C-マル iii 波によるドル安が進行中です。既に B 波-Ⓒ波の 38.2%押し[106.349]を達成し、目先的には下げ一服からリバウンドもありそうです。

もっともドル指数の下げ基調は今後も続き、次は 24 年 12 月 6 日安値の[105.420]を試すでしょう。

22 年 9 月～23 年 7 月の A 波において、ドルは 10 カ月で 13.2%減価しました。この A 波の期間と下落率は、C 波を考える上で参考になります。

筆者はドル指数が今年中に、23 年安値[99.578]を大きく下回る可能性をみています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア